

平成 26 年度県央広域都市圏生活行動実態調査

1 調査時期

平成 26 年 5 月～6 月

2 調査対象市町

宇都宮市，鹿沼市，真岡市，日光市（今市地域），さくら市，那須烏山市，下野市，上三川町，益子町，茂木町，市貝町，芳賀町，壬生町，高根沢町

3 調査方法

配布方法 : 郵送配布

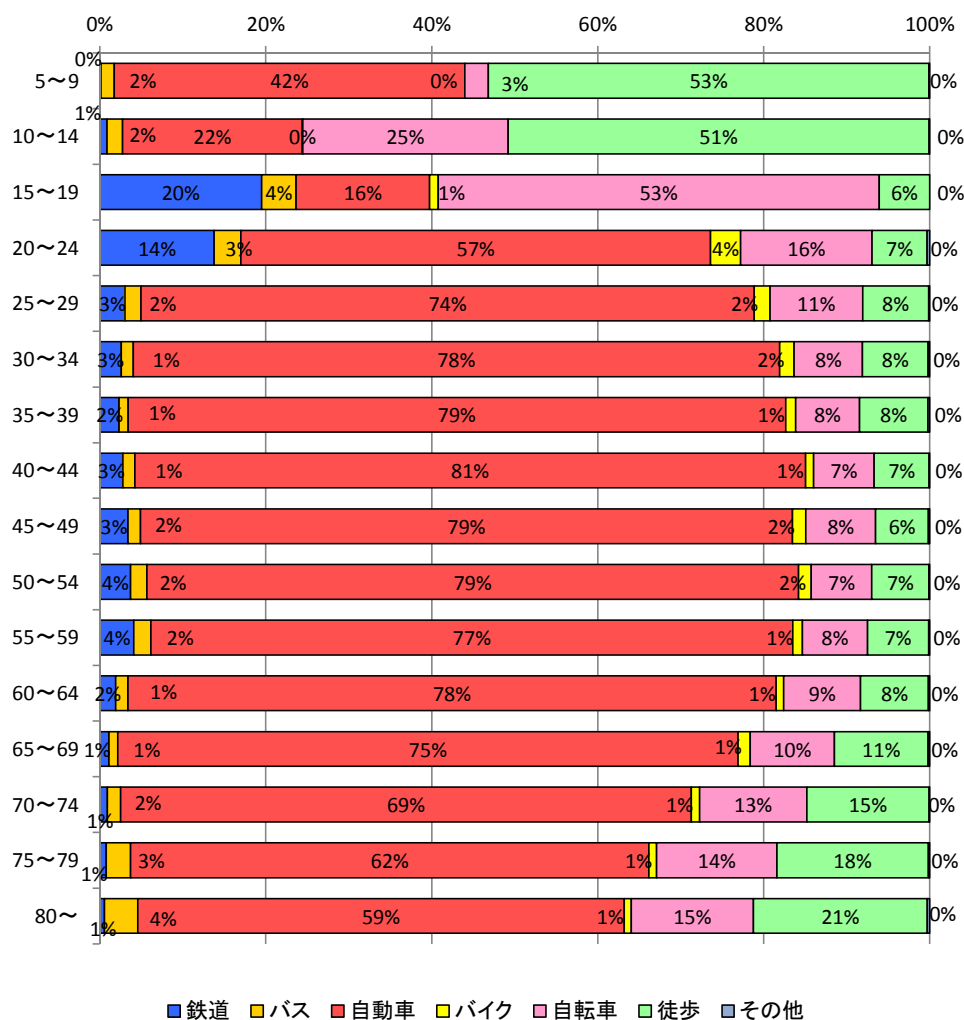
回収方法 : 郵送回収

有効回答数 : 33,749 世帯 (回収率 29.2%)



(1) 年齢階層別代表交通手段分担率（宇都宮市）

- ・高齢者になるほど徒歩トリップの割合が増加する傾向にある。また、バストリップの割合も高齢者になると増加する傾向にある。20歳以下では鉄道、自転車、徒歩の分担率が高い。

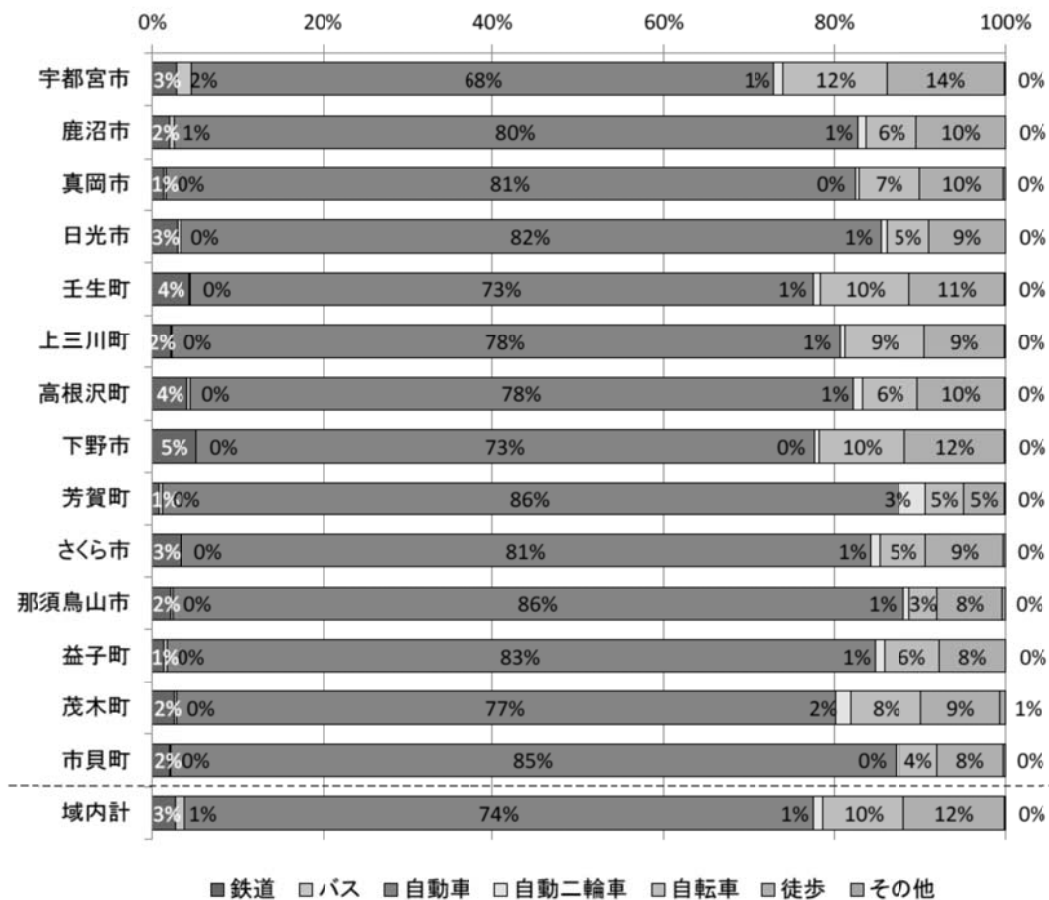


年齢階層別代表交通手段分担率（宇都宮市）

※ トリップ・・・人がある目的をもってある地点からある地点まで移動する単位

(2) 代表交通手段分担率（市町村別）

・宇都宮市では他の市町と比較して、自動車の分担率が低い傾向にある。

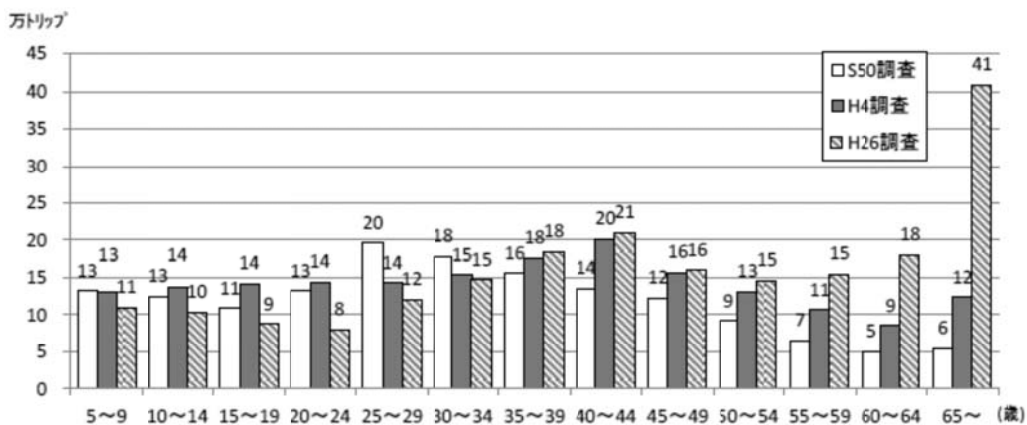


※発生集中交通量ベース

市町村別の代表交通手段分担率

(3) 年齢階層別のトリップ数の推移

・概ね35歳程度までの若年層のトリップ数は減少の傾向にあるが、35歳以上のトリップ数は増加する傾向にある。特に、65歳以上の高齢者のトリップ数の増加は著しい。



年齢階層別のトリップ数の推移